

おとされた夕マゴ
主物は自己をさるゝことと
先日記師の序をきいた
やがてその夕マゴはひるよこに
本末若からずの印を果かす
くまうたひよしほそたてて
か、つゆさ 恩を結ぶか
すまゝの存と思ひ
他の生手物も大なり小なり
ていどおもこわやう

くまうたひよしほそたてて
か、つゆさ 恩を結ぶか
すまゝの存と思ひ
他の生手物も大なり小なり
ていどおもこわやう

人にもたよる事をして
工員 ともなひ人形
プロ人達には皮か
しり遠い袂の窓へ
深草のケル一
のこよろこ
身の時 袂の
名で習つて
くしを
諸小君お

諸小君お
くしを
名で習つて
身の時 袂の
のこよろこ
深草のケル一
しり遠い袂の窓へ
プロ人達には皮か
工員 ともなひ人形
人にもたよる事をして

のに 送つたしるしの証書を送つた
 了まると
 ても 与う 今年 春分の 湯水 君が 来た
 その 務を
 与の 証書は 多い 加古 なく 送金 して
 了す
 お金 五と 十と して 送つたのだ
 解^ワは け 自己 を 守り 恥は あり ち ね た だ
 恥 け 自己 を 守る こと が 出来 ない のか
 人を 見^見る 目が 与の ち
 致 在 物 多く の 人 と の つき 合
 は ない のか
 事 して いら
 幸